

2024 年度

大学コンソーシアム京都 産学連携教育プログラム

プロジェクト企画実践コース

実習先

株式会社ユニオン・エー

プロジェクト名

若者向けフリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」を悩める学生

に発信しよう！

提出日 11月13日

受講者氏名

中野透、田中涼太

1. 実習先紹介

実習先である株式会社ユニオン・エーは、2013年10月1日に設立され、事業内容は、出版、企画、編集、広報ツール制作一式である。出版物としては、フリーマガジンの「ハッケイ 500m」、「おっちゃんとおばちゃん」があり、そのほか、ラジオ、WEB新聞など、京都に根差したメディアを複数展開する、地域密着型の出版社である。株式会社ユニオン・エーさんのもとの、6月から11月にかけて様々な活動を行ったのでそれらについて紹介する。

2. このプロジェクトの目指した所

ユニオン・エーさんが設定されたプロジェクトは、若者向け就職情報フリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」を悩める学生に発信しよう！！というもので、私たちは次のようなアウトプットとアウトカムを設定した。アウトプットは、①就活をテーマにした寸劇の披露。②ユニオン・エー社員インタビューを題材にしたチラシの作成。③ES自主イベントの開催。とした。アウトカムは、①～③の活動によって、学生に「おっちゃんとおばちゃん」を認知してもらうこととした。

3. ユニオン・エーが抱える課題とは

6月27日に事前訪問と顔合わせとして、株式会社ユニオン・エーの本社に訪問した。そこでのディスカッションで、ユニオン・エーは「おっちゃんとおばちゃん」を通して働くことにポジティブ（楽しさ、働き方、親しみ）な印象を持ってもらうことを目指していることが分かった。しかし課題として、その「おっちゃんとおばちゃん」の認知度が低いということがあげられた。そこで私たちはユニオン・エーの社員さんと話し合っ、て、「おっちゃんとおばちゃん」の認知度を上げるために、手に取ってもらう回数、目に入る回数を増やすことで、課題を解決しようと考えた。

4. 具体的な活動

① ミーティング

7月11日、7月25日にユニオン・エーの社員の方とオンラインでミーティングを行い自分達が考えた課題解決のためのアイデア案を共有した。当初のアイデアは、おっちゃんとおばちゃん T シャツを作るや、公共交通機関に掲示する広告の作成であったが、どちらもミーティングで案に対する根拠がしっかりしていないとご指摘していただいた。その中でも、学生インタビューという案は支持していただき、これを軸にプロジェクトを進めていくことにした。

② 目標確認

7月18日に、プロジェクトの目標の明確化のために作成したワークシートをユニオン・エーの社員の方に見てもらい、「おっちゃんとおばちゃん」の認知度を上げるということを確認していただいた。

③ 縁側で話す会

8月30日に、ユニオン・エーさんが主催の「はたらくおとなと、縁側で話す会」に参加させていただいた。イベントに参加させていただきただけで無く、自分達の体験談を元に、就活をテーマにした寸劇を作成していただいた。当日に寸劇を披露するために他のユニオン・エーインターンの学生達とも協力して、演劇経験のある社員さんのご指導の元、何度か練習を重ね、本番はとても良い評価をもらうことができた。

④ チラシ作成

寸劇の練習のために、本社に訪問していた際に、「おっちゃんとおばちゃん」を広める別の方法として、ユニオン・エーの社員に自分達がインタビューを行い、その内容をチラシにしてコンソーシアムの学生に配布するというものを提案させていただいた。実際に働かれている方から話を聞くことができるのは、自分達にとっても貴重でそれをチラシにしてコンソーシアムの学生に配布するというのは筋が通っていると言ってもらい、チラシを作成することができた。予定では9月5日の講義でチラシを配布するつもりだったが、チラシのレイアウトや内容について様々なアドバイスをもらい修正して、完成したものを10月3日の講義の日に配布した。

⑤ 今後の活動についてのミーティング

縁側で話す会を終えて、改めてミーティングを行い、今後の活動について話し合った。縁側で話す会で様々な企業の社員の方や参加した学生と話したことで、実際に話すことで学べることが多いことが分かり、当初計画していた学生インタビューという案から、学生を呼んだイベントを開催することに変更した。話し合いを重ねる中で、就活に対して自分達が気になることとしてESがあがり、ありのままの自分を伝えるべきか、それとも自分をよく見せるために作成するべきか、ということ疑問に思い、ESを題材にしたイベントを10月20日に開催することになった。

⑥ 主催イベント「YesなES」

イベントの内容は、匿名で作成したESを見ていただきそこから様々な意見を共有することにした。ESの内容は、1. 自己PR、2. ガクチカ、3. 「10年後の自分はどうなっていたいか?」、4. 長所や短所、5. 趣味や特技、とした。イベントに向けて準備を進め、当日はマツヤスーパーさん、ユニオン・エー、自分たちを含めた学生8人で開催することができた。匿名で作成したESは4人分集まり、ESを読んでどこがよかったかの意見発表をしたり、ESを読んで実際に一緒に働くとしたら4人のうち誰と働きたいかを投票したりなど、有意義な時間を過ごすことができた。イベントの中では他にもマツヤスーパーさんに、「そもそもなぜ学生にESを書かせるのか?」ということについてのコメントや、たくさんの質問に答えていただいて、とても勉強になった。

5. アウトプットとアウトカム

私たちが設定したアウトプットは、①就活テーマにした寸劇の披露。②ユニオン・エー社員インタビューを題材にしたチラシの作成。③ES自主イベントの開催。であった。①については、寸劇に対してアンケートで好評をいただいた(3割の参加者がイベント全体の中で「寸劇が良かった」と回答)。イベント参加者の約96%が満足(内85%がとても満足)という結果となった。②については、作成したチラシをコンソーシアムの学生や講師の方に合計20枚配ることができた。③については、アンケートの結果イベント参加者の100%が満足という結果となった。ESについての考え方がポジティブになった、今後の参考になったという感想が多くイベントは成功したと言える。

寸劇、チラシ作成、自主イベント開催を通して、直接的な認知度アップのデータを取るこ

とはできなかったが、寸劇に対する好評や、チラシに対する反応、自主イベント満

足度から、働くことへのポジティブな印象を与えることができた。上記活動内容の全てで「おっちゃんとおばちゃん」の宣伝を行っていたので、アウトカムである認知度アップもできたと言える。

6. 活動の反省

チラシ配布のスケジュールが当初は9月5日の講義で配布する予定だったが間に合わず、その後の10月3日の講義に配布となってしまった。もし間に合っていればほかのアクションを起こせていたかもしれない。また、自主イベントに関しても、もう少し早いタイミングでイベントの詳細を決めることができているならば、様々な方法で告知ができ、もっと多くの学生を集めることができたと思うのでそこが反省点だ。

7. 実習の感想

・田中涼太

今回のインターンでは、プロジェクト内容、企画の提案から始まり、何度も会議で改善案を模索し、主に3つのプロジェクトを実施できた。その中でも最も印象深いのはやはり自主イベントの開催だ。企画立案から開催までの流れを実習先様からのサポートもあり、満足のいく内容で達成できたことは大きな財産だ。企画提案段階で何度もトライアンドエラーを繰り返し、社会人としての「考え方」と「伝え方」を経験できたことは必ず今後の自分に生かされるだろう。長期インターンでしか得られない経験をできたこと、とても満足している。

・中野透

実習が始まった際に自分が掲げた目標は「自信をつけること」だった。約半年間の実習の中で、受け入れ先と何度もミーティングをしたり、イベントで寸劇を披露したり、チラシを作成したり、自主イベントを開催したりと、様々なことを経験することが出来た。特に自主イベントに関しては、当日の流れに沿って司会進行をしたことで、自信につながる貴重な経験となった。参加当初は最後までやり通せるか心配だったが、胸を張って頑張ったといえる活動ができた。